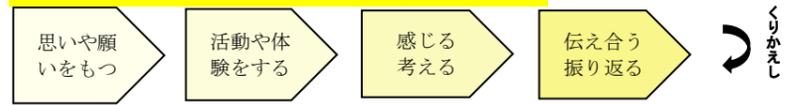


蔵王小学校 スタートカリキュラム

令和6年2月作成

学校教育目標：豊かな心をもちたくましく伸びる子

項目	0歳～	5歳児	小学校1年生	2年生～	
		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3		
①期待する子供像	基本的な生活習慣を身に付けることができる。	豊かな体験を通じて、幼児が自ら感じたり、気付いたり、わかったり、できるようになったりする。 → 気付いたことやできるようになったことを使い、考えたり、試したり、表現したりできる。 → 集団の中で互いを認め合い、よりよい生活を営もうとする。	学校生活に慣れ、身の回りのことを自分でできるようになる。 → 自分の力で学校生活を送り、学びが自覚できる。	主体的に学びに向かうことができる。	
②遊びや学びのプロセス	諸感覚を通じた体験を一つ一つ重ねる。	過去の体験のつながりや、遊びの中での気づきを大切にする。心身全体を働かせ、遊びや様々な体験を通して、発達の基礎を築く。段階を踏みながら、指先を使った活動や体幹を鍛える活動を行う。	気づきを交流、言語化することによる学びの自覚化。 	疑問をもち、対話をしながら、課題を解決する。	
③園・所で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	集団的な遊びを通じた総合的な学びを行う。	遊びを通じた学び ・子どもたちがしたい遊びから様々な経験をする。 ・友達と試行錯誤しながら作ったものを使って遊ぶ。 泥団子づくり 体育遊び お買い物ごっこ 折り紙 マフラー編み (指先を使う活動を中心に行う。)	生活科 遊びを通じた学びを小学校でも継続し、体験して得た学びを大切にする。 【ともだちとなかよし】新しいともだちのことを知る。 【学校となかよし】学校生活のことを知る。 【もうすぐ2年生】2年生に向け、準備をする。	2年生では、引き続き生活科と他教科を関連させた指導を行う。	
		朝の会やそうじ、給食の用意に、進んで関わられるようにする。	係活動・当番・そうじで、自分の役割を自覚する。		
④指導上の配慮事項	先生の関わり	試行錯誤しつつ自分で行う活動を尊重しながら見守り、適宜援助を行う。	幼児と先生との関係を中心としながら、幼児同士でも関係作りが行えるようにする。 対話を通して、幼児の考えを促す。	安心感を与え、成長・自立を支える。 → 気づきを基に、思考を促す。交流等を行い、気づきの質の高まりを実感させる。	
	子供の学びや生活を豊かにする園・所の環境の構成・小学校の環境づくり	幼児の興味や関心を踏まえ、発達状態に応じた適切なものを、個々に準備する。安全に探索意欲を満たせる環境を整備する。	幼児が自発的に活動できるような設備や道具を用意する。その上で、興味や関心を刺激できるようにする。発達段階に応じた材料や道具の配置を工夫する。折り紙などの工作に用いる材料は、自由に使える量を用意する。自然の変化や豊かさを感じられるような、季節に応じた動植物に親しむことができる環境をつくる。複数の職員で、良いところや伸びを評価できる環境をつくる。	児童の発達の特性を踏まえ、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成し、具体的な活動の伴う学習活動を位置づける。学習の準備が自分でできるよう、絵と言葉で掲示する。時間の管理ができるよう、時計やタイマーに工夫をする。複数の教員で児童と関わる体制をつくり、様子について共有しながら、学習や生活のサポートをする。指示や説明を理解しやすいよう、また表現のツールとして、ICTを積極的に活用する。目の前の学習に集中できるよう、妨げとなるようなものを教室に置かない。学んだことを、友達や他学年の児童に見てもらえるような掲示をする。	1年生から引き続き、必要な児童には複数の教員で支援を行う。ICTを活用し、調べ学習や表現の場を設ける。
	特別な配慮を必要とする幼児・児童への支援	個に応じた様々な手立てを検討し、指導や支援を行う。生活の場の特性を生かして、発達を促していく。温かい人間関係づくりに努め、互いを認め合う肯定的な関係をつくる。	様々な角度から児童の情報を集め、必要な手立てを考える。実物を活用し、見たり触ったりして理解しやすい教材を用いる。友達と関わり協力する機会をつくることで、得意なことや得意なことを補い合いながら活動できるようにする。		
⑤子供の交流	友達との出来事や体験を通して、様々な感情をもつことを体験する。	同年齢の幼児同士で、遊びを通して関係作りを行う。異年齢同士の関わりをもつことで、協調性や社会性を身に付ける。 例) 夏祭りに合わせて、買い物ごっこを行う。年齢ごとのクラスで催し物を行い、招待する。	2年生・6年生を中心に、学校生活の基礎を教えてもらう。 新1年生に向けて、小学校の紹介をしたり学校体験のサポートをしたりする。 年間通して、他学年の児童と一緒に掃除を行う。	1年生が学校生活を円滑に行えるよう、過ごし方等について教える。	
⑥家庭や地域との連携	一人一人の幼児の生活について連携し、理解を深める。	園所にいる間や家庭での様子を保護者と積極的に情報交換する。 例) 送迎時 連絡帳 おたより 参観 ドキュメンテーション 地域の人に来てもらって交流する。 例) 焼き芋・餅つき クリスマス会 節分	学年通信・家庭訪問・懇談等で、児童の学校での様子や家庭での様子を交流し、今後の指導に生かす。保護者と一緒に給食を食べたり、体を動かしたりして、学校の様子を知ってもらう。地域の方に昔遊びを覚えてもらい、体験をする。	家庭との連携を引き続き行い、地域の資源も活用して学習を充実させる。	
⑦小学校・幼稚園・保育所の連携	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、小学校・幼稚園・保育所で共有し、教育・指導内容について交流する。円滑な接続のため、幼児と児童の交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの交流 ・幼保小連絡会 ・園所の先生との研修及び交流 ・イベントの招待 ・園児の学校体験 ・園所の先生との合同授業研修 ・カリキュラムについての交流 ・幼保小連絡会 			

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
育ってほしい児童の姿	<p>入学当初の児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強することに関心があり、意欲が高い。 ○友達と一緒に楽しく遊び、だれとでもみんなと仲良く過ごせる子が多い。 ○体を動かして遊ぶのが好き。 	<p>お兄さん、お姉さんはすごいな。あんなふうになりたいな！私にも、できるかな？</p> <p>園所ではいろいろなことをしてきたよ。学校ではどんなことをするのか？早く知りたい、やってみたい！</p> <p>小学校ってどんなところかな？友達できるかな？楽しいといいな！</p>	<p>安心</p> <p>成長</p> <p>自立</p>	<p>期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目標を持って挑戦し、やり遂げようと努力する子 ○自他を大切にし、学びを振り返りながら仲間とともに高まり合う子 ○心も身体も元気でたくましい子 								
主な学習活動	<p>生活科を中心とした総合的・関連的な学習活動の充実 単元名「ともだちとなかよし」(4H)</p> <p>例) 国語「どうぞよろしく」(3H) 図工「かきたいものなあに」(2H) 算数「ともだち」(3H) 音楽「うたってなかよし」(2H)</p>		<p>生活科を中心とした総合的・関連的な学習活動の充実 単元名「がっこうとなかよし」(7H)</p> <p>例) 国語「図書館へ行こう」(3H) 図工「いっしょにおさんぽ」(2H) 算数「いくつといくつ」(3H) 音楽「名前あそび」(3H) 特別活動「小学校のきまり」(1H)</p>		<p>1年生年間指導計画に基づく学習活動の実施 (総合的・関連的な学習活動を含む)</p>							
環境構成(人・もの・こと等)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝休憩と1時間目はのんびりタイムを設定する。ゆったりと過ごす。【こと】 ・机の配置をグループ机にする。【もの】 ・児童が安心して過ごせるように、複数の教職員や上級生で支援する。(登校、朝の支度、給食、下校)【人】 ・時間の区切りを、音楽を流すなどの聴覚的な支援を行う。【こと】 ・児童が安心して過ごせるよう、児童に寄り添った対応をする。【人】 ・登校班遊びや1年生を迎える会等で、他学年との関わりを作る。【こと】 ・新しい人間関係を築けるように、人と人をつなげる時間や、活動を設定する。(友だちと触れ合う時間、他学年・異学年集団との交流)【人】 ・1日の生活がスムーズに進められるよう、視覚支援をする。必要な時に、必要な物を貼る。(1日の流れ、場所、活動の見通し、ICTの活用)【もの】 ・日直や発表などを複数で行う。言える人から言う。【こと】 ・思いついたときに制作や飼育などができるように、〇〇コーナーを作り活用できるようにする。【もの】 ・学校生活に慣れ、ゆったりと楽しい気持ちでスタートするために、園での生活に合わせた時間割りを設定する。【こと】 ・ゲームや制作などの活動は1時間単位で進めてもよいが、書く・読むなどは長時間は避け、ゲームなどと組み合わせるなどして、活動的な時間を多く仕組む。【こと】 ・給食の量を配慮する。食べられる分だけよそい、よそった分は食べ切る。【こと】 (・登校班のメンバーの顔合わせを入学前に済ませる仕組みをつくる。) 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自立していくために、児童の実態に応じた支援を要請する。(必要のない助けは少なくしていく。) ・主体的に動くために、実物や写真等の視覚支援をする。(片付け、整頓)【もの】 ・協働的な活動ができるように、遊びコーナーや生き物を飼育する部屋を設置する。(場づくり)【こと】 ・協働的な学習のために、話し合いができる向かい合わせの配置をする。【こと】 ・主体的な学習のために、児童の思いや願いから学習活動を構成する。【こと】 ・児童が自立していくために、係や当番活動など、自分たちでできる活動を行う。【こと】 ・児童の自己理解のために、自分の成長を認識できる授業、場の設定をする。【こと】 		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に活動し、課題解決するために、子どもたちが学習スタイルを選ぶことができる土壌づくり。【人】 ・必要のない支援をなくす。【人】 ・視覚的支援を少なくする(分かるものは取る)→言葉での指示へ変えていく。【もの】 ・目的に応じた机の配置をする。【もの】 ・自分たちで考え、表現できる取り組みを設定する。(参観日、新1年生との交流、1年間のまとめ、ふりかえり)【こと】 							
園・所の連携	<p>幼保小連絡会(5月)</p>		<p>園・所の先生研修及び交流(6月)</p> <p>園・所の先生と研修及び交流(8月)</p>		<p>生活科「おいでよあきのテーマパーク」招待(11月)</p> <p>園・所職員との合同授業研修(11月)</p> <p>園・所職員との合同授業研修(1月)</p> <p>カリキュラムについての交流(2月)</p> <p>園児と幼児による学校体験(2月)</p> <p>幼保小連絡会(3月)</p>							
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にも学校生活の見通しをもってもらえるように、1週間(4・5月)は、1か月単位で予定や学習内容が分かるようなお便りを出す。 ・宿題への声掛けをしてもらう。 ・持ち物の準備物について知らせ、家庭で準備や確認を一緒にしてもらう。 ・学校でできるようになったことなどを保護者と共有し、できたことを認め合い、自己肯定感を高める。(年間通しての取組とする。) ・家庭学習の習慣づけや文字の定着ができるよう、家庭学習の目的を共有し、協力を依頼する。 ・気になる児童の健康面での細かい配慮ができるよう、連絡帳や電話などで連携を取る。 ・基本的な生活習慣が定着するよう、早寝・早起きし、朝ご飯を食べて登校できるよう家庭と連携する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童に家庭学習の習慣が付くよう、きらきらカードや音読、計算カードなどの継続の支援をお願いする。 ・休み明けの登校渋りがある子が気持ちよく登校できるよう、提出物などの確認をしてもらうなど、家庭と連携する。 		<p>継続</p>							

